

# 第3回

- 1 C.K. プラハラード著『ネクスト・マーケット』(英治出版、2005年)より、ビデオ紹介(附属CDROMより) みなさん、くたびれてきた頃に、CM的に、みようかな。
- 2 農村社会から、工業社会・都市社会への発展・成長
  - (1)新古典派経済学モデル
    - ・限界労働生産性ゼロの労働力 = 偽装失業 (disguised unemployment)  
「偽装就業」とはいわない理由
    - ・自分の限界生産性って、わかるのか?
    - ・モデルの課題
      - (あ)古典的批判 対ルイス・モデル 3つ メモしよう

-----

-----

-----

(い)現代的批判

- ・インフォーマルセクター拡大の理由として、グローバリゼーションとの関連が問われるべき。フォーマル部門の労働強化と相対的魅力の低下(本学大学院生水上祐二君 [経済学博士]のタイのバンコックを素材にした研究の成果)
  - ・インフォーマルセクター内部の資本蓄積の進展
  - ・都市フォーマル部門の「高」賃金を内生化する(理論課題)
  - ・景気変動との関連での、動態的観察が必要
- (2)19世紀古典派の理論(「本源的蓄積論」を中心に)
- ・資本主義をほかの時代から区別するモノは、何か?
  - ・労働市場で売られる商品とは、何か 労働力商品
    - 商品の「使用価値」とは何か。固有価値のレベルと、一般的な使用価値のレベル
      - 固有:シェルシュの塩ラーメンはうまいが、好きだ、とか
      - 一般:食欲を満たす
    - 商品の「価値」(交換価値) ラーメン1杯 円という「価格」は、「価値」に近いだろう。しかしイコールではない。
  - ・労働力商品の使用価値は、剰余価値生産をする能力 搾取
    - しかし、これは不等価交換ではない。詐欺でもない。「自由、平等、博愛」のブルジョア市民社会の原則にのっとった、正当かつ合法的交換、取引
    - マルクスは、資本家が労働者を「違法に」だましていたわけではない。
    - 形式論理でとことん説明しようとした。近代資本主義経済の合理性を説明する中で、最終的に解決しない矛盾を析出した。社会主義思想の創始者ではない。社会主義思想は数十年、あるいは百年以上をかけて、「社会」が生み出したもの。

ちょっと脱線:「個性」も大事だが、「標準」も大事。

めっちゃ、難しい本を読んでみよう:島恭彦『東洋社会と西欧思想』これは島先生の『近世租税思想史』の副産物。後者もむちゃくちゃ難しい。『資本論』的なむずかしさではないが、おすすめの一冊です。格闘してみてください。

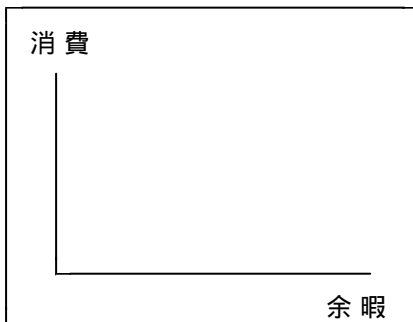
3 農村経済のモデル 描いてみよう

農業(賃金)労働者 vs 定額小作制 vs 定率小作制 (sharecropping)

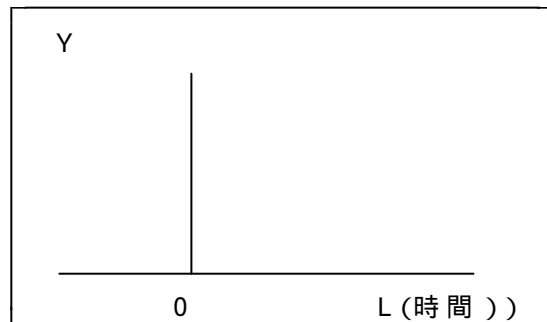


生産者であると同時に、消費者であるという設定(農家)

消費関数



生産関数



2つを1つのグラフ(diagram)に統合してみよう。生産関数のほうはグラフを反転させよう。

